

第10回

HAKUMON Chuo 書展

中央大学書道會

書く楽しさ、見る楽しさ、誌上書展

早春の候、皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
中央大学書道會からもサークル活動で大いに貢献した8人が卒業します。その中からメンバー3人の作品を誌面で紹介します。「書」を共にした学生生活に感謝を込めています。

新学期に向けて、書道會は一人でも多くの新入生に入会してもらえるよう、4月に“新歓”パフォーマンスや新歓書展を開催します。書道に向き合う日々です。

◎創「一(はじめ)」
商学部4年 釜谷将光
今からここから。



唯少為宋人西筆耳故全錄之
嘉慶乙丑孟顓余自田間來皖
道過此院蘭臺開士邀坐竹間
因索書此於壁
完白山人鄧石如 惠暉臨

◎臨鄧石如(鄧完白)「敖陶孫詩評」

法学部4年 長井愛

碑学派の祖である鄧石如の作品を臨書しました。独特な形と線をまねるのに苦労しました。

枯樹賦 殷仲文風流儒雅海內知名代異時移出為東陽太守常忽不樂庭槐而歎曰此樹婆生意盡矣至如白鹿貞松青牛文梓根桓盤魄山崖表裏桂何事而銷亡桐何為而半死昔之三河從殖九畹移根開花建始之殿落實唯陽之園聲含嶺谷曲抱雲門將鷁集鳳比翼巢驚眩風亭而嘆鶴對月峽而吟猿乃有拳曲擁腫盤場反覆態勢顧眄魚龍起伏節登山連文橫水戴石驚視公輸眩目雕鎬始就剝削仍加平鱗鑿甲落角摧牙重碎錦片真花紛披草樹散亂烟霞若夫松子古度牛仲君邊森梢百頃槎枒千年秦則大夫受賦漢則將軍坐焉莫不蒼埋菌塵鳥剝虫穿但乘於霜露撼顛於風煙東海有白木之廟西河有枯桑之社北陸以揚葉為開南陵以每根作治小山則蕪桂留人扶風則長松繫馬豈獨城陰細柳之上寒落桃林之下若乃山河阻絕飄零離別拔本垂淚傷根流血火入空心膏流斷節橫洞而歌臥頓山要而半折文衰者合體俱碎理亡者中心直裂戴瘳銜痛藏穿抱穴木魁暘跋山精妖孽况後風雲不感羈旅無歸未能採芻還成食薇沈淪窮巷苦沒荆扉既傷搖落誰嘆變衰淮南之木葉落長年悲斯之謂矣乃為歌曰建章三月火黃河千里槎若非金谷滿園樹即是河陽一縣花桓大司馬聞而歎曰昔年移柳依漢南今看搖落悽愴江潭樹猶如此人何以堪 乙未某月臨枯樹賦 朗宏

◎臨褚遂良「枯樹賦」

経済学部4年 神野朗宏

中国の庾信が故郷の風物を想って詠った詩です。何文字あるでしょう？

大学生活を大好きな書道會と褚遂良の書と共に送れて、幸せと感謝でいっぱいです。